苫小牧市統合型リゾート(IR)
可能性調査・検討結果報告

概要版

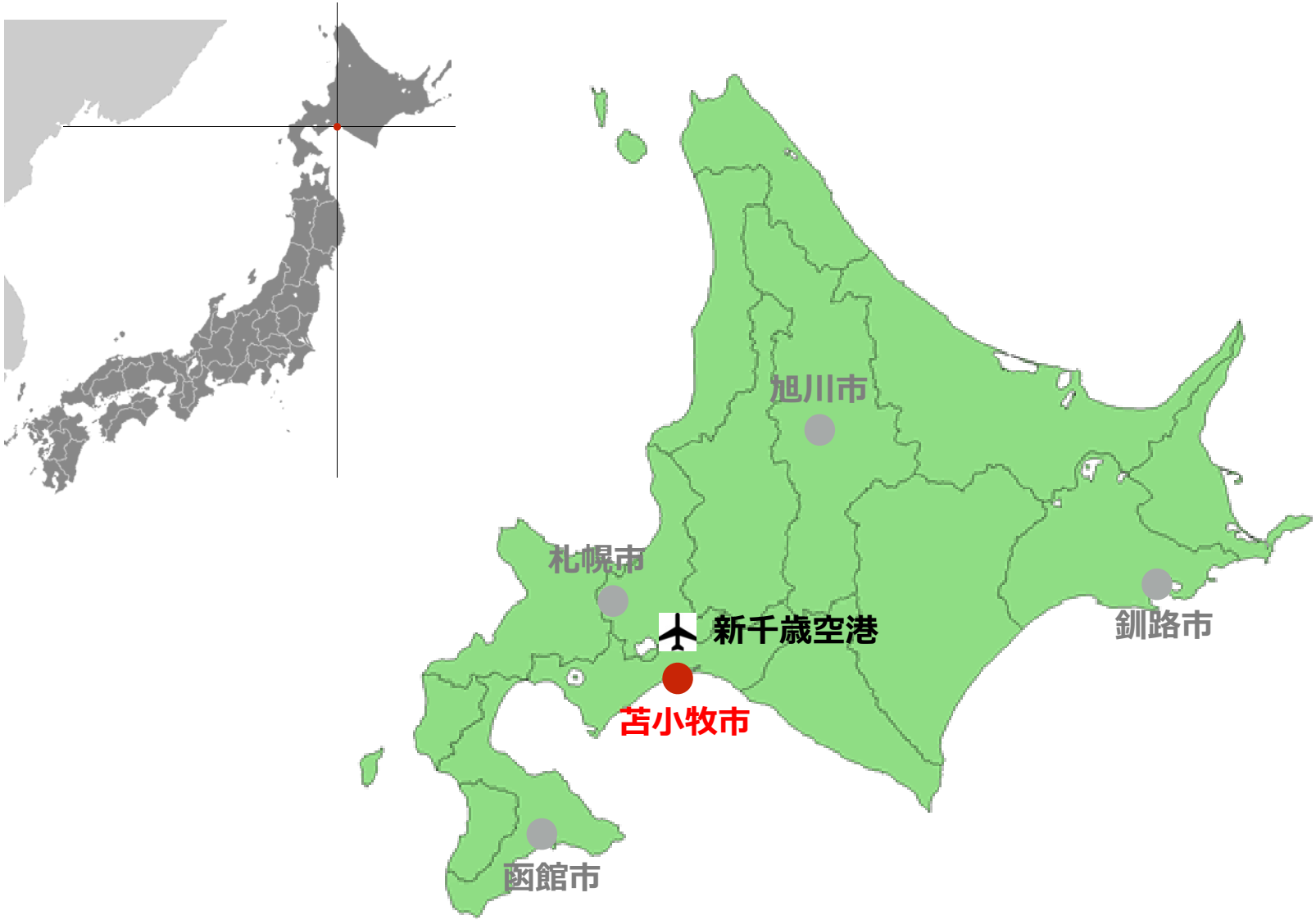
苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

目次

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
2. 海外IR事例の調査・分析結果
3. 苫小牧統合型リゾート(IR) の検討
4. IR導入に際してのインフラ・財政面での検討
5. IR導入による社会的影響とその対策
6. IR導入による経済効果
7. 法制度の整備と想定されるロードマップ
8. IR導入に向けた課題

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討

苫小牧市の状況(1)



1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
苫小牧市の状況(2)

北海道で最も充実した交通アクセス

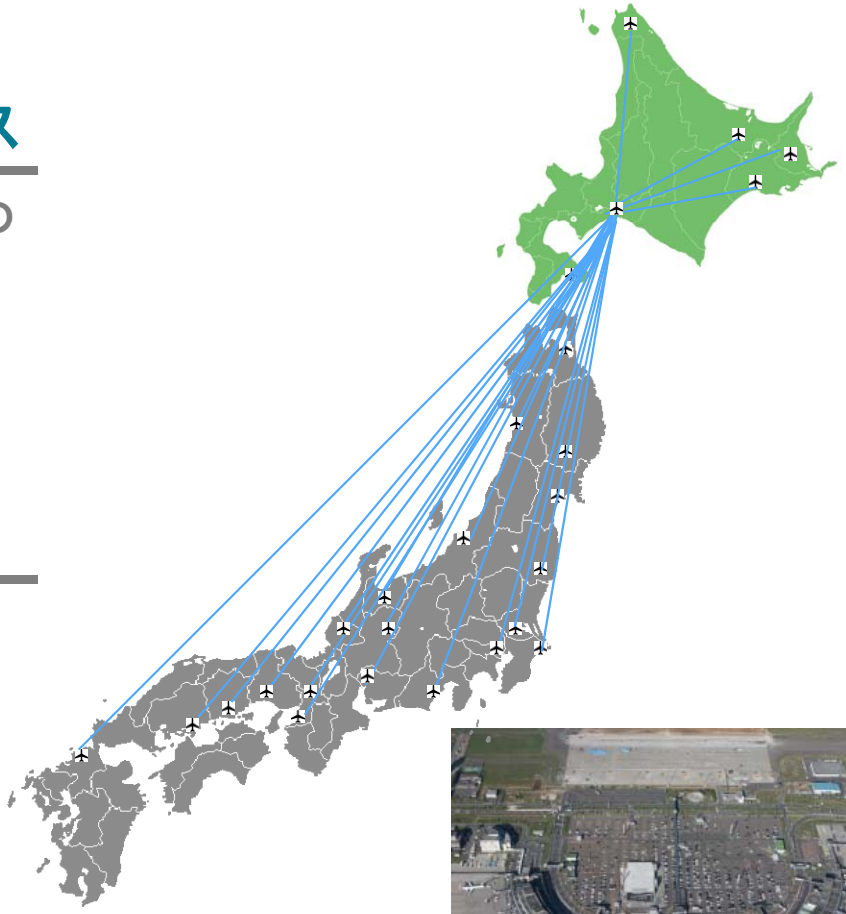
◆国内外へのアクセスもスムーズ、空・海・陸の交通の要衝

北日本最大の産業集積都市

◆紙・パ、自動車関連企業をはじめ、幅広い業種が集結する産業都市

自然と環境に優しいまち

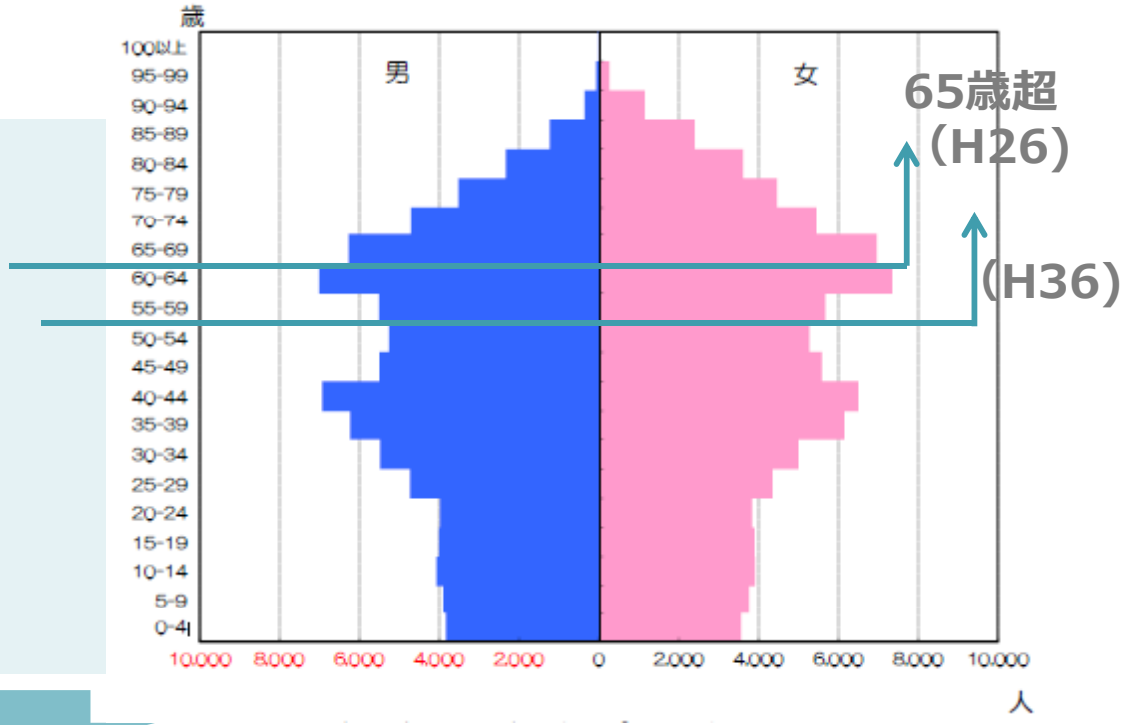
◆広大な森林と湖沼や湿原など自然と調和したまち



1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
苫小牧市の状況(3)

少子化・高齢化
・生産年齢人口(15～64歳）減少
・社会保障費の増大

産業構造の変化
・生産拠点の海外移転
・ITによる企業間競争の激化



税収減少・インフラ更新投資等の政策投資ができない時代へ

市民サービスの低下が懸念

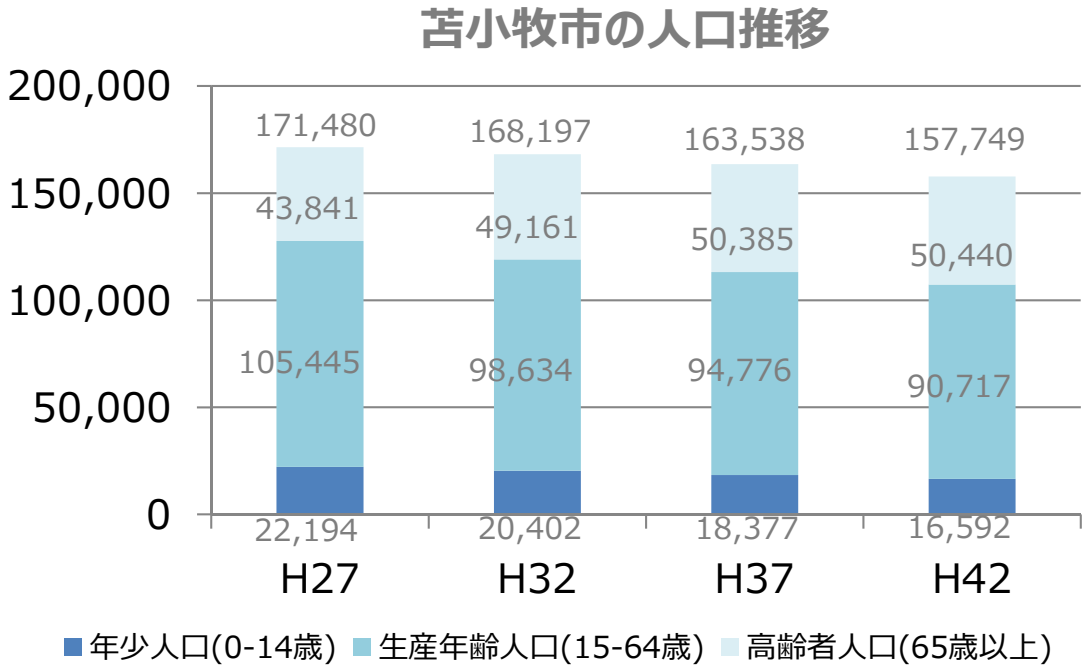
出典：苫小牧市の人口動向(平成26年) – 住民基本台帳人口 – 統計とまこまいNo.108
苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課　2015.2

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
苫小牧市の状況(4)

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

少子化・高齢化
・生産年齢人口(15～64歳）減少
・社会保障費の増大

産業構造の変化
・生産拠点の海外移転
・ITによる企業間競争の激化



税収減少・インフラ更新投資等の政策投資ができない時代へ

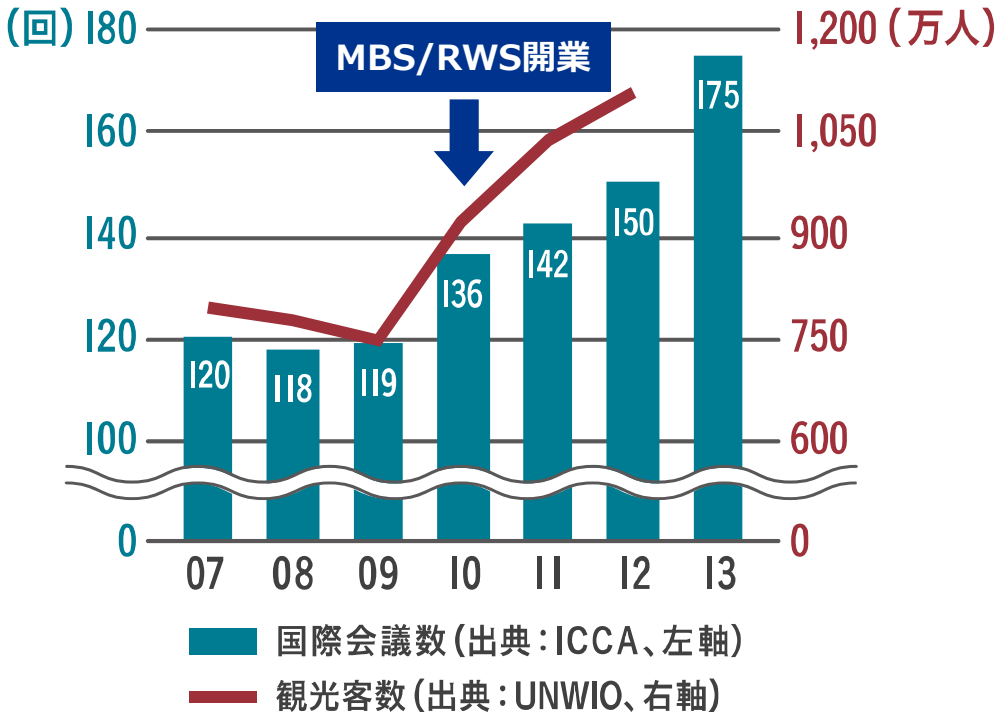
市民サービスの低下が懸念

出典：苫小牧市統計書及び国立社会保障・人口問題研究所　日本の地域別将来推計人口より

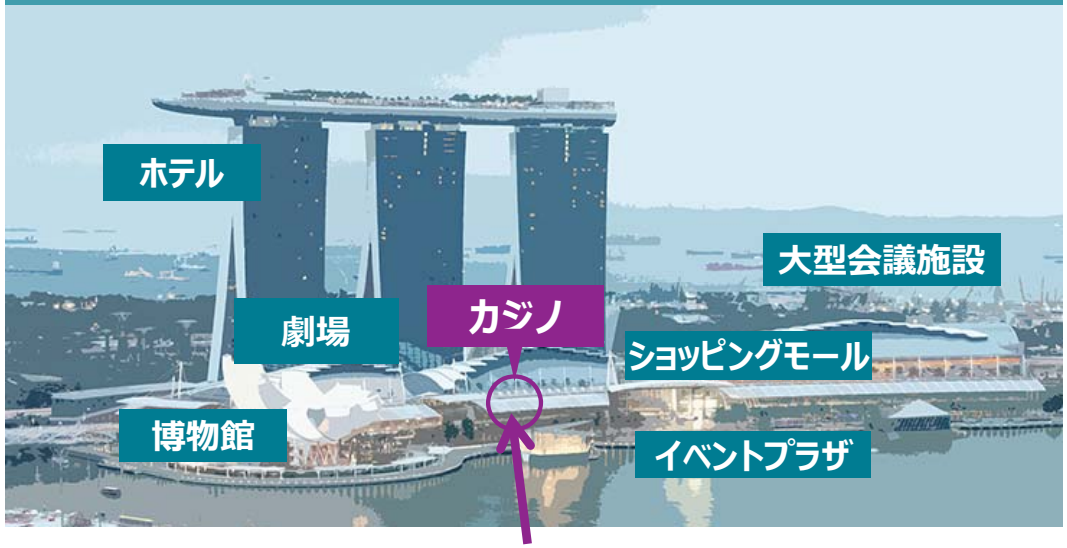
1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
統合型リゾート(IR)とは？(1)

IRとはカジノに加え、ホテル、MICE(展示場、会議施設)、レストラン、ショッピングモールやエンターテインメント施設等、様々な観光資源を<u>複合開発する総合的な観光施設</u>のこと。

シンガポールにおける観光客数等の推移



シンガポール　マリーナ・ベイ・サンズ



カジノ施設はIR面積の３％

➡ 観光客数　1.4倍（1040万人）、国際観光収入1.8倍（約2兆円）へ

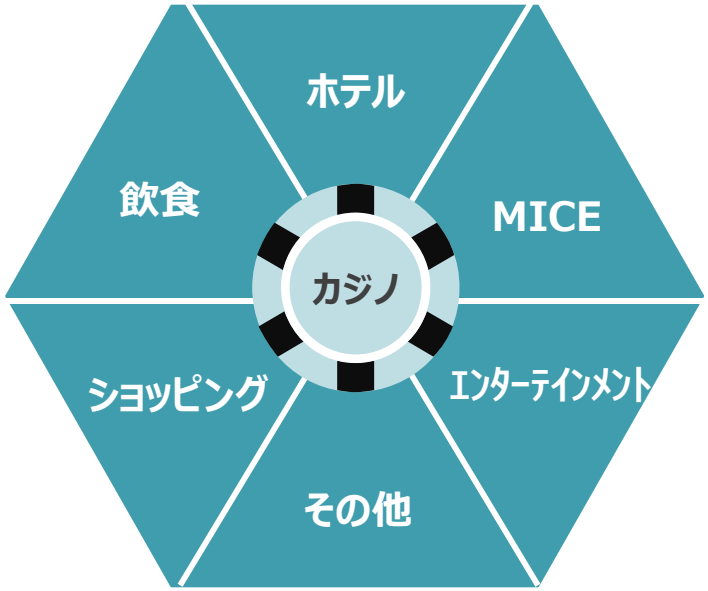
<POINT>

・IRは観光振興効果が期待できる。また、カジノだけではない。

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
統合型リゾート(IR)とは？(2)

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

IR ＝



※現状、観光振興を目的としたIR導入に向けた法整備の準備中。民設民営で運営される予定。

期待される効果(観光振興・地域振興)

- 観光資源とのシナジー効果により高い集客効果
- カジノの集客・収益力を活用した、観光資源開発
- カジノの収益力を利用した公共インフラの整備
- 民間投資を活用した雇用・地域経済・財政への寄与

懸念される事項

- 社会的影響(ギャンブル依存症、周辺治安の悪化等)

IR/カジノ導入国において、実際にどのような状況であるかを確認するため、海外視察を実施

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
観光分野は21世紀の成長分野(1)

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

●他の産業への経済波及効果が高い

観光客は宿泊、飲食、公共交通機関、娯楽、土産物等の幅広い分野で消費活動を行うため、地域経済の幅広い分野にその効果が及ぶことが期待できる。

●外需を取り込むことが出来る

人口減少・高齢化が進む日本では将来的に内需の大幅な拡大は見込めないが、経済成長著しいアジア等からの旺盛な観光需要を取り込むことが期待できる。

観光消費額単価

費目	道民	来道者	訪日外国人来道者
交通費	3,313円	18,674円	39,307円
宿泊費	2,259円	17,863円	22,344円
飲食費	1,793円	10,612円	16,528円
土産・買い物代	4,430円	18,012円	36,536円
入場料・施設利用料	593円	2,416円	3,964円
その他の支出	882円	2,092円	3,448円
合計	13,271円	69,670円	122,128円

北海道2020年目標

122,128円× 200万人

= 約2,443億円

平均家計消費支出
229,572円/月・世帯
(年間約275万円/世帯)

約8.8万世帯分の
年間消費支出に相当

(参考)
苫小牧市の世帯数 85,800
（出典：H26.1.1住民基本台帳）

出典：
観光消費額単価 「第5回北海道観光産業経済効果調査報告書」
平成23年3月北海道観光産業経済効果調査委員会
家計消費支出 「家計調査(平成26年11月)」-二人以上の世帯 – 総務省統計局速報・北海道分

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
観光分野は21世紀の成長分野(2)

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

国際観光客到着数ランキング

1位	フランス	8,302万人
2位	米国	6,977万人
3位	スペイン	6,066万人
4位	中国	5,569万人
5位	イタリア	4,770万人
6位	トルコ	3,779万人
7位	ドイツ	3,154万人
8位	英国	3,117万人
9位	ロシア	2,836万人
10位	タイ	2,655万人
⋮		
24位	日本	1,036万人

国際観光収入ランキング

1位	米国	1,396億ドル
2位	スペイン	604億ドル
3位	フランス	561億ドル
4位	中国	517億ドル
5位	マカオ	516億ドル
6位	イタリア	439億ドル
7位	タイ	421億ドル
8位	ドイツ	412億ドル
9位	英国	406億ドル
10位	香港	389億ドル
⋮		
21位	日本	149億ドル

・UNWTO(国連世界観光機関）の調査では、世界経済が低調であるにもかかわらず、世界の国際観光需要は2012年に10億人代の大台を超え、その後も順調に推移。2020年には13.6億人、2030年には18.1億人に増加すると予想。
・特にアジア太平洋地域の成長は著しく、今後も年5-6%の成長が見込まれている。

観光資源の豊富な日本には、世界中から観光客を集めることができる魅力がある

出典: UNWTO Tourism Highlights 2014 Edition、フランスの国際観光客到着数はH25年分未公表のためH24年分を記載

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
北海道観光の状況と課題

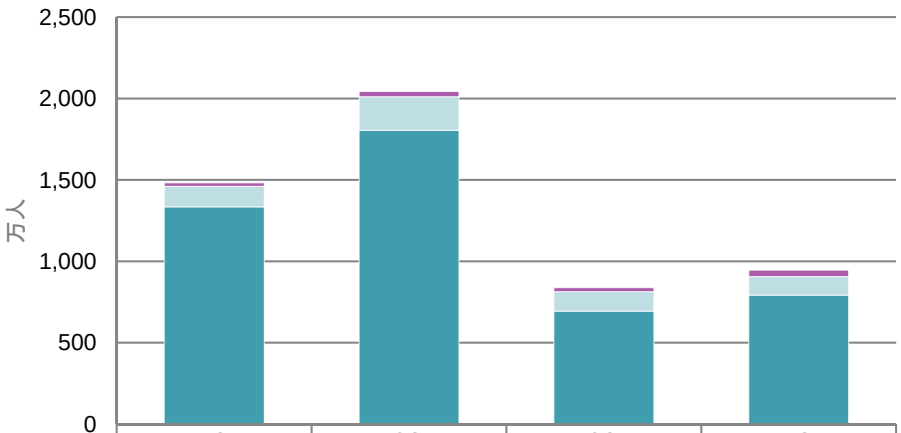
北海道観光の現状

- ●人口減少による国内市場の縮小
- ●繁忙期と閑散期のギャップ
- ●観光客の道央圏への集中

北海道観光の課題

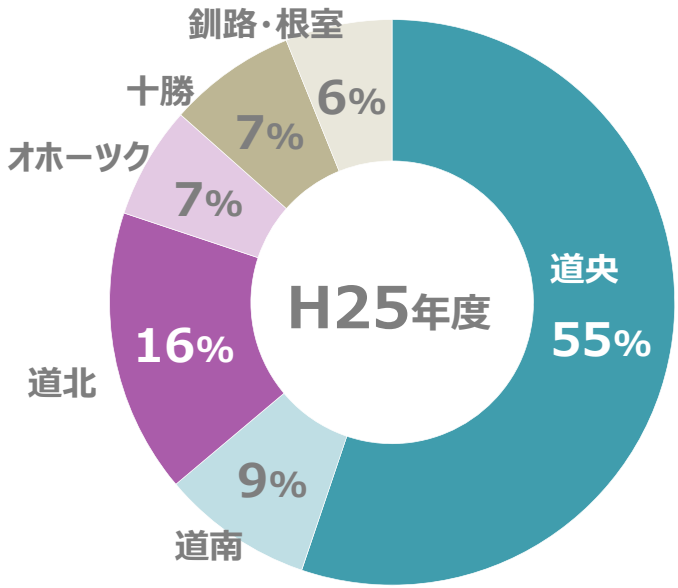
- ●外国人観光客の誘致・受入環境整備
- ●季節的変動の少ない観光資源の開拓
- ●観光資源の磨き上げ、二次交通アクセスの充実

観光入込客数の四半期別状況



	1Q	2Q	3Q	4Q
外国人	20	33	24	39
道外	127	205	119	114
道内	1,335	1,806	695	793

圏域別観光入込客数(延べ人数)



出典：「北海道観光入込客数調査報告書平成25年度」（平成26年8月北海道経済部観光局）

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討

苫小牧観光の状況と課題

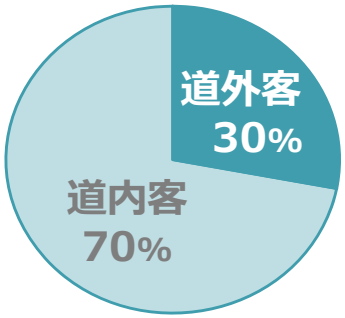
H25年度実績

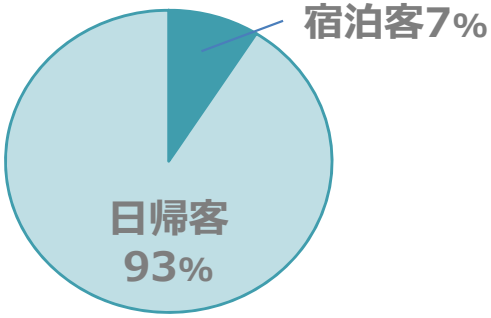
観光入込客数 **184**万人

前年比▲2.7%

外国人宿泊客 **2.2**万人

前年比+256%





●夏期に道内から日帰りでゴルフなどのスポーツ目的で来訪する方が多い

●集客力の高い施設は、①道の駅ウトナイ湖(45.2万人),②ノーザンホースパーク(24.5万人),③ぷらっと港市場(21.8万人)等である。

苫小牧市の観光の課題

●北海道の玄関口が身近にありながら、滞在を伴う観光拠点や魅力ある観光ルートが少ないため、通過する街になっている

●工場や港など産業を中心としたイメージが強い反面、雄大な自然や特産品などの情報発信力が弱く、観光客にとって町を訪れる動機がない

●近隣の西胆振、東胆振、日高の観光資源のポテンシャルがあるにもかかわらず、実績として十分に生かし切れていない

出典: 観光入込客数 「北海道観光入込客数調査報告書(平成25年度）」北海道経済部観光局　公表資料
苫小牧市観光の課題 「苫小牧市観光振興ビジョン」平成27年3月　ビジット苫小牧観光会議

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
IR導入の必要性

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

北海道のポテンシャル

観光地としての魅力

・行ってみたい旅行先　国内第 1 位[1]

・訪日外国人来道者数 115万人[2]

・観光入込客数　5,310万人[2]

北海道のブランド力

・アジア圏での北海道への訪問意欲は東京・京都に次ぐトップレベル

苫小牧市のポテンシャル

道内アクセスの拠点

国際空港・国際港・高速道路の整備
→道内各地の観光地へのGateway

潜在的に大きな商圏

・30/60分圏内人口150/300万人
(道人口の約6割)

・新千歳空港乗降客数 1,926万人

豊かな自然と広大な土地

国・道の観光政策への貢献

(国)　訪日外国人旅行者2020年に2,000万人超、2030年に3,000万人超

(北海道) 外国人来道者数 200万人(2020年,国の目標の10%)
300万人(2030年,国の目標の10%)

出典：[1]公益財団法人日本交通公社 旅行者動向2013 、[2]平成25年度北海道観光入込客数調査報告書

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
北海道/苫小牧の観光振興に向けた課題の整理

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

	外部環境	
	機会(Opportunity)	脅威(Threat)
	・政府観光政策 (日本再興戦略) ・来道外国人観光客数の増加	・国内人口減少・市場縮小 ・アジアの観光地との競争
	機会を掴む	脅威に対抗

内部環境		
強み(Strength)	・北海道の豊かな観光資源 (自然・食・歴史・文化) ・道内アクセスの拠点 ・潜在的に大きな商圏に隣接	強みを生かす
弱み(Weakness)	・観光客の季節的変動 ・観光資源の道央集中 ・ナイト・エンタテインメント不在 ・通過する街になっている ・観光地としてのイメージがない ・観光資源の活用不十分	弱みを克服

IR導入により
北海道観光の振興に向けた課題解決が期待

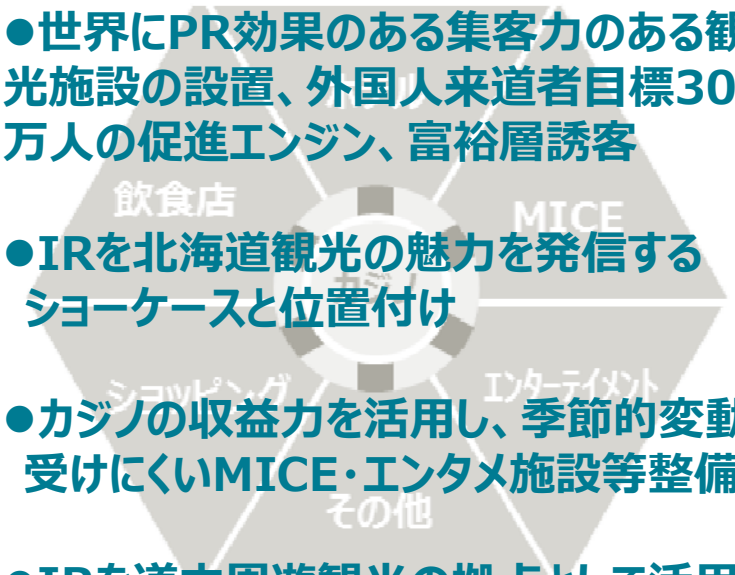
- ●世界にPR効果のある集客力のある観光施設の設置
  外国人来道者目標300万人の促進エンジン、富裕層誘客
- ●IRを北海道観光の魅力を発信するショーケースと位置付け
- ●カジノの収益力を活用し、季節的変動を受けにくいMICE・エンタメ施設等を整備
- ●カジノ・エンタメ施設による夜間観光需要の取り込み
- ●IRを道内周遊観光の拠点として活用

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
IR導入により期待される効果

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

北海道IR導入の目的

- ●世界にPR効果のある集客力のある観光施設の設置、外国人来道者目標300万人の促進エンジン、富裕層誘客
- ●IRを北海道観光の魅力を発信するショーケースと位置付け
- ●カジノの収益力を活用し、季節的変動を受けにくいMICE・エンタメ施設等整備
- ●IRを道内周遊観光の拠点として活用



苫小牧IR(空港隣接型)が最適な理由

新千歳空港隣接の利便性
- ✓ 道外・海外の観光客のアクセス
- ✓ MICE等ビジネス客層への訴求力
- ✓ 道内周遊観光拠点として最適な立地

空港隣接地に広大な候補地
- ✓ 北海道観光のコンセプトに適合した自然を生かした開発が可能

➡ IR近隣に留まらず、広く道全体の観光振興効果が期待（道内の地域選定上、高い優位性が想定）

苫小牧市に期待される効果

- ✓ IR建設投資による経済効果
- ✓ 新たな雇用創出、地産地消の推進
- ✓ 近隣観光の滞在型観光拠点
- ✓ IR税収・負担金を活用した観光振興施策の実行

1. 苫小牧市の状況とIR導入の必要性の検討
苫小牧IRのコンセプト

- 北海道のブランドイメージを活かし、北海道観光の魅力を発信するショーケースとして位置づけ

- 苫小牧の広大で豊かな自然を活かし(近隣地域の観光資源も連携) 、リラックスできる空間の創出

- 人間環境都市宣言の街として、最新技術を駆使して開発と自然が共生するECO空間を創出

- 空港隣接地の強みを活かし、道内周遊観光の拠点として活用

- 世界に通用する Only1のIRを創出し、外国人来道者目標の達成を促進

2. 海外IR事例の調査・分析結果
世界の主なIR(カジノ)の概要

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

欧州
リゾート地・大都市で**大人の社交場・エンターテインメント**として発展。観光誘致目的で大規模・複合的に開発されるものは少ない。

米国(ラスベガス)
地域経済の活性化を目的に合法化。競争が激しく**カジノ以外のエンターテインメントを充実**させることにより発展。

韓国
外貨獲得を目的に外国人専用カジノとして発展。廃鉱地域再生を目的に唯一自国民が参加可能な江原ランド開業。

カジノの負の影響の事例として検討

シンガポール
海外からの観光客誘致を目的に合法化。カジノとエンターテインメントを組み合わせ、複合的に開発することで発展。

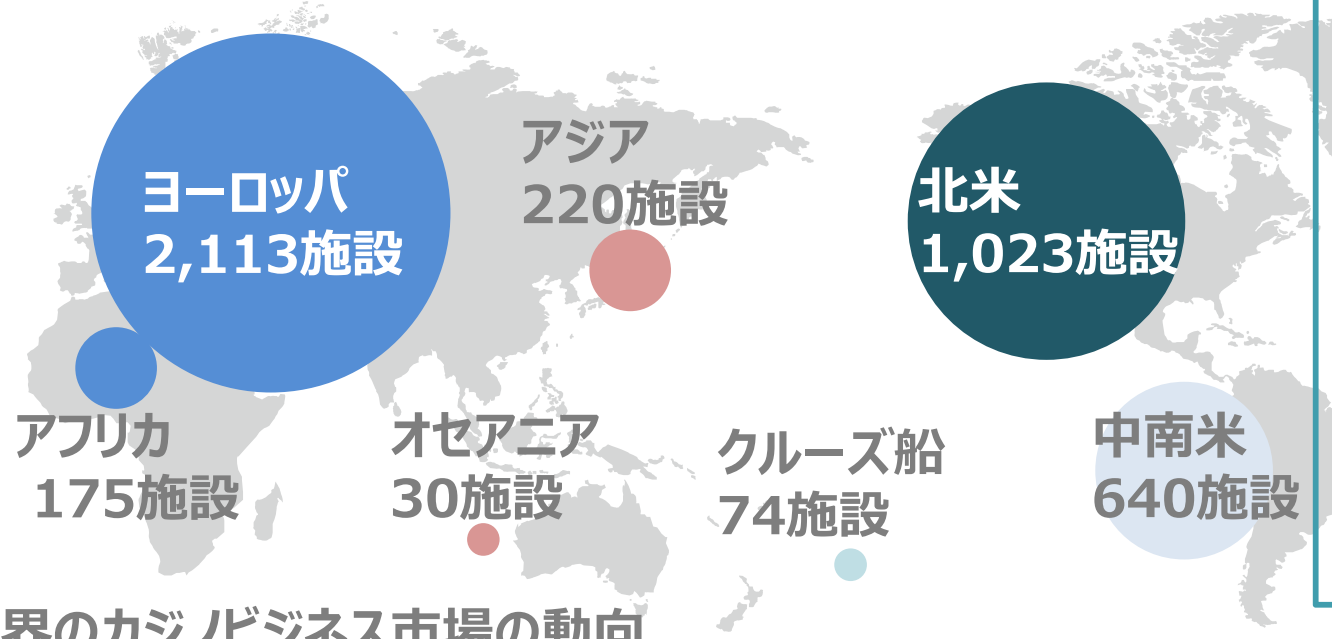
日本型IRのベンチマークとして検討

マカオ
観光振興・税収増を目的に合法化。
カジノ以外のエンターテインメントも強化中。
中国の富裕層に支えられて発展。

2. 海外IR事例の調査・分析結果
世界のカジノ市場の動向

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

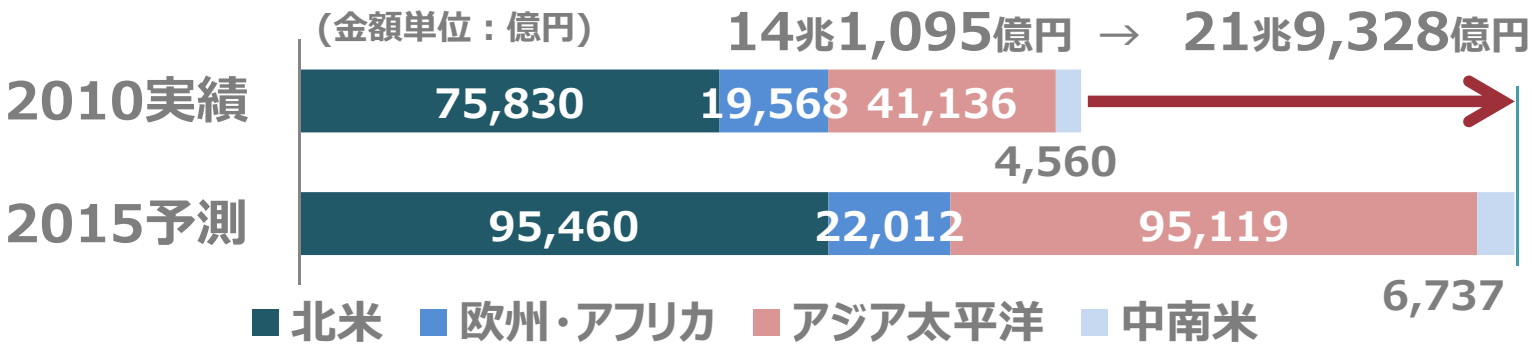
世界のカジノ施設数



POINT
- 世界150以上の国でカジノを含むギャンブルが合法化(日本でも公営競馬、宝くじ等は合法化)。
- G8諸国でカジノを合法化していないのは日本のみ。
- 世界各国で観光振興・外貨獲得等を目的としてカジノ・IR施設の開発が進行中。

ex.
韓国,パラダイスシティ
フィリピン,Entertainment City Manila
ロシア、ウラジオストック・プリモリエ
米国、ニューヨーク州
英国、Resorts World Birmingham

世界のカジノビジネス市場の動向



- アジア太平洋地域の伸長等により世界市場は大きな伸びが見込まれていたが、2014年のマカオの成長鈍化により実績値は左記予想値を下回る可能性が高いと考えられる。
- その一方で、上記のように世界各国でIR開発は進行中でありIR型のカジノ市場は拡大していくものと考えられる。

出典: 施設数はCasino City Press “Global Gaming Almanac 2014 Edition”
世界市場動向はGlobal Gaming Outlook, The casino and online gaming market to 2015,2011/12 PWC
上記資料のUSD建の金額を120円/USDで邦貨に換算して記載

2. 海外IR事例の調査・分析結果

IR海外視察の結果概要

視察先	シンガポール	韓国
主な訪問先	マリーナ・ベイ・サンズ リゾート・ワールド・セントーサ 国家依存症対策協議会(NCPG)	パラダイスカジノ済州 済州国際コンベンションセンター 江原ランドカジノ 江原ランド賭博中毒ケアセンター
IR/カジノ導入効果	・両IRの売上高合計5,600億円 ・シンガポールへの観光客数は開業4年で6割増の1,550万人、観光収入は4年間で8割増の約2兆円へ。IR来場者の大半はカジノ以外の施設利用者	パラダイスカジノ済州(外国人専用) ・売上約37億円 ・顧客(観光客)の80%は中国人 江原ランドカジノ(**唯一自国民使用可**) ・売上約1,300億円 ・顧客の99%は韓国人
社会的影響とその対策	・ギャンブル依存症患者数はIR導入前後で大きな変化なし(約1.2%→1.4%,NCPG調査) ・予防教育、ID確認による入場制限、自国民から入場料徴収、ケアセンターの設置等の事前・事後対策を講じている。	・治安悪化、依存症等の負のイメージ ・予防教育、ID確認による入場制限、自国民から入場料徴収、ケアセンターの設置等の事前・事後対策を講じている。

2. 海外IR事例の調査・分析結果
シンガポールIR(カジノ)の概要

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

マリーナ・ベイ・サンズ(MBS)

コンセプト：
ビジネス＆大人のエンターテインメント
ホテル、ショッピングモール、MICE(展示場・会議室）、博物館、 劇場、スカイパーク(屋上プール）を併設

リゾート・ワールド・セントーサ(RWS)

コンセプト：
ファミリーリゾート
ホテル、ショッピングモール、MICE(展示場・会議室）、ユニバーサルスタジオ (東南アジア初出店）、博物館、水族館(世界最大)を併設

（出典）苫小牧市IR視察資料

<POINT>
- **海外からの観光客誘致を目的として、コンセプトに基づく事業者提案募集**
- **カジノ解禁に際しては社会的影響を考慮して綿密な制度設計**
- **両施設にはカジノ以外の利用者(観光客)も多く訪れ観光スポットに**

2. 海外IR事例の調査・分析結果
韓国　江原ランドのカジノの概要

江原(カンウォン)ランドカジノ

唯一韓国人が利用できるカジノホテル
・首都ソウルから車で3時間以上の立地
・ゴルフ場・スキー場等のリゾート施設を併設するも、収益のほとんどはカジノ。

- 廃坑地域再生目的で導入。売上約1300億円、地元に多額の税収効果をもたらし、当該政策目的は達成
- 但し、以下のカジノに係る負の影響が指摘
  - 歴代幹部の汚職スキャンダル
  - 施設周辺の環境悪化（質屋乱立・風紀の乱れ）
  - 賭博依存症患者の増大
- 背景として、カジノありきの開発（観光振興ではない）、当初段階での自国民への負の影響対策不足が想定

（出典）苫小牧市IR視察資料、美原融大阪商業大学教授ブログ

<POINT>
導入段階でのコンセプトや負の影響対策に対する綿密な計画が不足する場合、カジノ集客への過度な集中と依存症等の負の影響が発現するリスクがある。

2. 海外IR事例の調査・分析結果
調査・分析結果からの教訓

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

以下に係る導入段階からの綿密な計画・実行が重要

① IR導入の目的・コンセプトの明確化と事業者募集

- 北海道・苫小牧の観光振興というIR導入の目的、広大で豊かな自然を活かしリラックスできる空間の創出、開発と自然が共生するECO空間の創出等のIRのコンセプトの明確化
- コンセプトの実現に向けた民間事業者の募集・選定プロセス

② 社会的影響への対策

- カジノに係る負の社会的影響に対する厳格な対策の徹底

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
機能・施設の検討の前提

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

前提

- IRコンセプトの実現に向け、カジノ以外に併設する施設を検討。
- **IRは民設民営で整備・運営されることが想定されており、導入に際しては最終的には民間事業者がIR全体の事業採算性を考慮した上で判断する。以下の検討はあくまでコンセプトに沿った施設を作る場合の想定案である。**

IRの機能・施設の検討

- 検討に際しては、IRコンセプトとの適合性、想定顧客層のニーズ等を勘案
- 他のIR等施設の事例を参考にしながら、成功要因と課題を検討
- 近隣観光資源、道内観光資源との連携を図ることにより、IRに対する投資額を抑えながら、集客力の向上・多様なアクティビティの提供が期待。道内の連携先の観光地では、IRを経由した観光客が増加することによるシナジー効果が期待。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討

想定顧客層の分析

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

IRの利用が想定される顧客を以下のように分類し、検討を行う。

主要ターゲット

圏内客　約300万人[1]

IRから車で60分以内に居住する住民。近隣の商業施設として、カジノに加えて、併設するレストラン、エンターテインメント施設等を利用すると想定。

来道外国人約115[3]→300万人

来道する訪日外国人。道では観光立国実現に大きく貢献していくこととしている。来道時にIRに宿泊し、カジノ、レストラン等を利用する他、道内観光拠点として利用することを想定。

道内客　約246万人[2]

圏内客以外の北海道民。平均すると年間約8.5回道内を旅行。道内旅行先の一つとしてIRのホテルに宿泊し、カジノ、エンターテインメント、レストランを利用することを想定。

道外客　約565万人[3]

来道する日本人旅行客。来道時にIRに宿泊し、カジノ、レストラン等を利用するほか、道内観光拠点として利用することを想定。また、空港隣接型の特徴を活かし、複合型MICE施設の提供を想定。

※各顧客層毎の**潜在顧客数**を記載。道外客、来道外国人欄は来道する旅行者の延べ人数で、観光・ビジネス両方の目的を含んだもの。

出典　[1]住民基本台帳(平成27年1月1日時点）より集計
[2]北海道の総人口(住民基本台帳)約546万人より圏内人口を控除して算定
[3]平成25年度北海道観光入込客数調査報告書　(実人数) 平成26年8月 北海道経済部観光局

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
カジノ施設の概要

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

想定顧客層：　全ての来場者(未成年者は除く)

諸外国における施設の状況：
・バカラ、ルーレット、ブラックジャック等のテーブルゲームと、スロットマシンなどゲーム機が設置される。
・一般利用客と、高額利用客(VIP)向けのスペースが区分され、24時間営業されることが多い。
・シンガポール、韓国では入場時に身分証明書による本人確認が要求され、依存症対策、青少年対策(未成年確認)、反社会的勢力の関与防止に活用。

カジノ施設のイメージ

※日本の法案は未成立だが、カジノ施設の面積、ゲーム機の台数等に制約を設けることの他、従業員、使用されるゲーム機、カジノ施設の運用に対して、厳密に規制されることが想定される。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
ホテル(宿泊施設)の検討

想定顧客層：　圏内客以外の道内客、道外客、来道外国人

コンセプト：
・広大で豊かな自然を活かし、自然と調和する低層の施設を想定
・ファミリー層、富裕層、ビジネス客等、様々な客層のニーズに対応するため、
　複数のグレードのホテルを設定
検討課題：
・最新技術を駆使し、開発と自然が共生するECO空間の創出をどのように目指すか。
・宿泊客の季節的変動、宿泊ニーズ等を踏まえた客室数の検討。
参考：
・後述のホテル一体型MICEを運営する際には、一度に大量の利用者が宿泊する
　ため、一定規模の客室を提供する能力が求められる。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
飲食施設の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

想定顧客層：　全ての来場者

コンセプト：
- 北海道産の四季折々の食材を用いた料理を提供
- 来道外国人に対して、日本流の「おもてなし」を提供

検討課題：
- 道外からの観光客に加え、外国人観光客や、富裕層等、様々な顧客層の食のニーズに対応するため、高級レストラン（ex. ミシュランの三ツ星レストラン）や、ファミリー層向け、ビジネス客向け等、国際色豊かで魅力ある飲食施設の誘致が必要。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
MICE施設の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

MICEとは？

Meeting	Incentive (Travel)	Convention	Exhibition /Event
企業等のミーティング（会議）	企業が従業員・代理店等の表彰などの目的で実施する旅行(報奨・研修旅行)	国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等	文化・スポーツイベント、展示会・見本市

MICEの特徴
・MICE利用者は観光客より滞在期間が長く、平均消費単価が高い（高い経済効果）
・好印象を抱くと、**プライベートでの再訪問が期待**

国内の既存施設の問題点
・MICE施設とホテルが物理的に離れた場所にある。（札幌を始めほとんどの施設に共通の問題。）

IRとの親和性
・希少性のあるカジノがMICE誘致のポイントに。
・ビジネス利用は季節による変動を受け難く、ホテル稼働の平準化・稼働率の向上が期待。

日本の統合型MICEの代表例
・パシフィコ横浜(MICE施設)
・横浜インターコンチネンタルホテル

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
MICE施設の検討

想定顧客層：　各想定顧客層のうち、主としてビジネス客

コンセプト：
・空港隣接の立地を最大限に活用し、会議場・展示場・ホテルを一体運営
・これまで北海道で誘致できなかったMICEのニーズに応える施設を提供
・周辺アジア諸国のMICE施設との競争に耐えうる魅力ある施設を提供

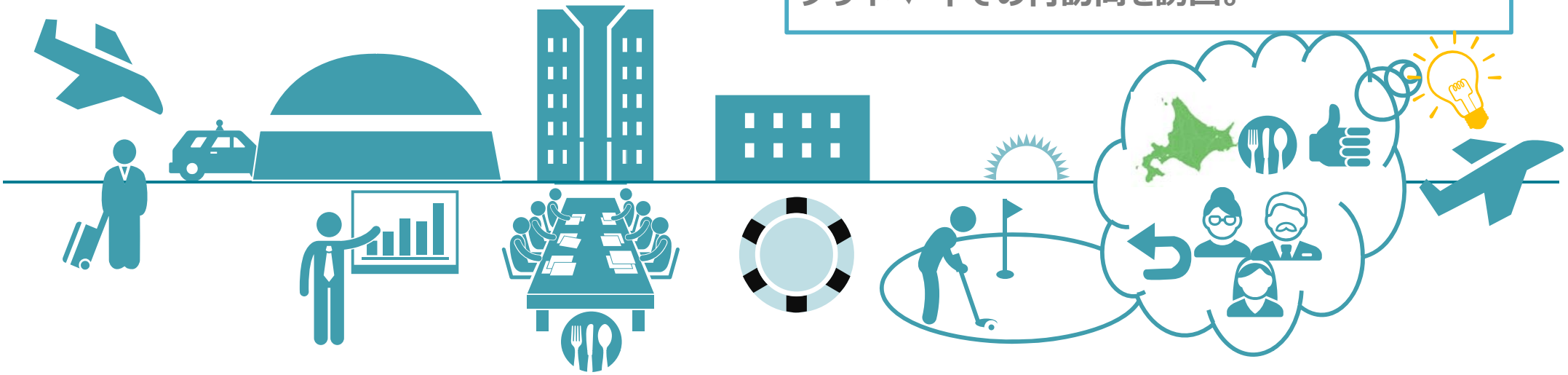
検討課題：
・国際競争力のある施設のスペックと、収益性のバランスについて慎重な検討を行い、適正規模の施設を建設する必要がある
・MICE利用者を誘致するためには、施設の存在のみでは不十分。行政を巻き込み既存の札幌のMICE施設と競合ではなくシナジー効果を発揮できる体制を構築し、オール北海道でアジア諸国とのMICE誘致競争に勝ち抜く体制を整える必要がある

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
MICE施設の検討

例）ある企業が秋口に子会社(海外含む)社長会議をIR/MICEで開催

POINT
会議場施設・セミナー会場はホテルに併設。一体運営のため、施設間の移動・手続はワンストップで最小限。

POINT
翌朝IR隣接のゴルフ場でプレーを楽しんだ後は、道内観光地に向かい北海道を満喫して帰宅。満足度が高い旅行体験を提供することで、次回のプライベートでの再訪問を誘因。



POINT
新千歳空港から会議会場まではIRのシャトルバスで約10分。国際線も就航しているため、国外からの参加者の利便性も高い。

POINT
ホテルのレストランでの夕食後は、併設の劇場でミュージカルを鑑賞したり、カジノ、バーで楽しんだり。大人向けのナイトエンターテインメントを満喫。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
ショッピング施設の検討

想定顧客層：　主として道外客、来道外国人

コンセプト：

・道内の名産品、海産物、野菜、フルーツ等を集めたマルシェ（市場）やスイーツ店、道固有の文化である「アイヌ」「馬文化」等に関連する店舗等、北海道の魅力を道外客に発信するショッピング拠点を設置。

・急増している来道外国人(特に中国人)の買い物ニーズに対応し、道産品の他、家電量販店、化粧品等の免税店や、高級ショッピングモールを誘致

検討課題：

・ 近隣の既存大規模商業施設（新千歳空港ターミナルビル、三井アウトレットパーク札幌北広島、千歳アウトレットモール･レラ）との競合･連携関係の整理

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
エンターテインメント施設等の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

想定顧客層：　全ての来場者

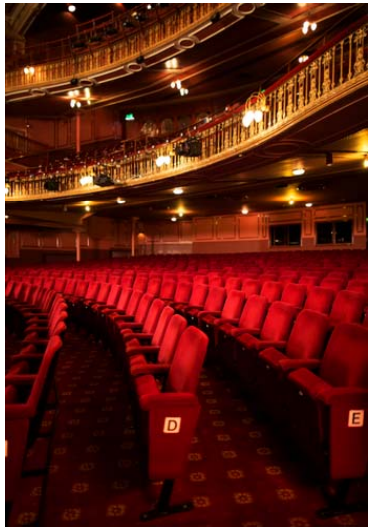
コンセプト：
・道外客・来道外国人に対し道内の自然体験観光の機会を提供
・四季を通じてファミリー層が楽しめるエンターテインメント施設を設置
・大人向けのナイトエンターテインメント（ミュージカル、ディナーショー等）を提供

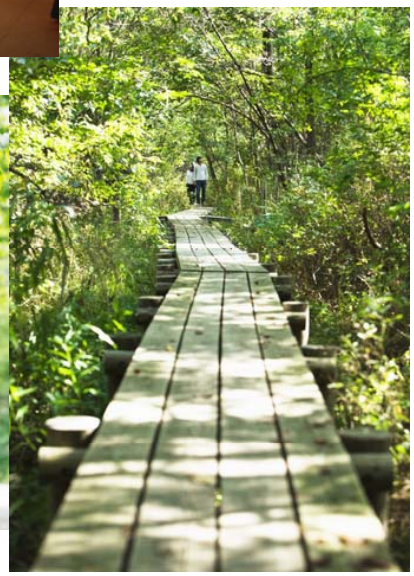
検討課題：
・圏内客（特にファミリー層）向けに、テーマパーク、水族館等、継続的な集客効果が見込め、IRのコンセプトに調和する施設の誘致を検討。
・来道外国人向けに訴求力がある日本の伝統芸能（歌舞伎、狂言等）や、北海道独自の文化であるアイヌの伝統文化に触れる機会の提供を検討。
・自然体験観光のトライアル拠点として、体験スキー・スケートやアドベンチャーランド、乗馬体験、トレッキング等の機会の提供を検討。
・現状、観光地ではない立地にエンターテインメント施設を建設するため、いかに集客力を高めて、収益性・採算性を維持できるか。

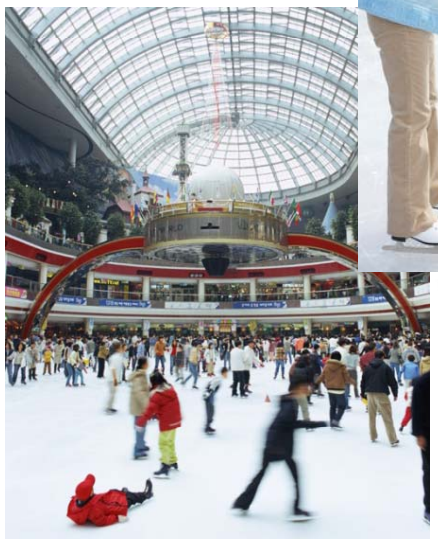
3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
エンターテインメント施設等の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

エンターテインメント施設等のイメージ







3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
その他の施設等の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

想定顧客層：　全ての来場者

コンセプト：
・IR来場者が四季を通じて活用できるスポーツ施設
　（テニスコート、フィットネス・スタジオ、スケートリンク等）を導入
・IR来場者が利用できる温泉&SPAリゾート施設を導入

検討課題：
・北海道周遊観光センター（コンシェルジュ）
・医療ツーリズムの受け皿施設の設置を検討

・苫小牧ではアイススケート、アイスホッケーが盛んなことから、道内客、道外客や来道外国人に対して体験アイススケート、体験アイスホッケーの機会を提供すると共に、アイスショーやアイスホッケーの会場としても利用することができるスケートリンクの設置を検討。

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
その他の施設等の検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

医療(メディカル)ツーリズム:

・患者が治療や健診、療養、リハビリを受けるために海外に渡航すること。
・医療費の安い国に渡航するケース、自国よりも高い水準の医療行為を受けるために渡航するケース等がある。
・日本では2011年から医療滞在ビザを新設し、受入体制づくりが進められている。2020年時点の潜在需要42.5万人、観光を含む市場規模は5,500億円という試算もある。[1]

IRで期待されるシナジー効果:

・他の医療機関と提携し、健康診断やスパによる療養行為等をIRで提供することにより、医療(メディカル)ツーリズム参加者をIRに呼び込むことが考えられる。

健診分野のツアー商品

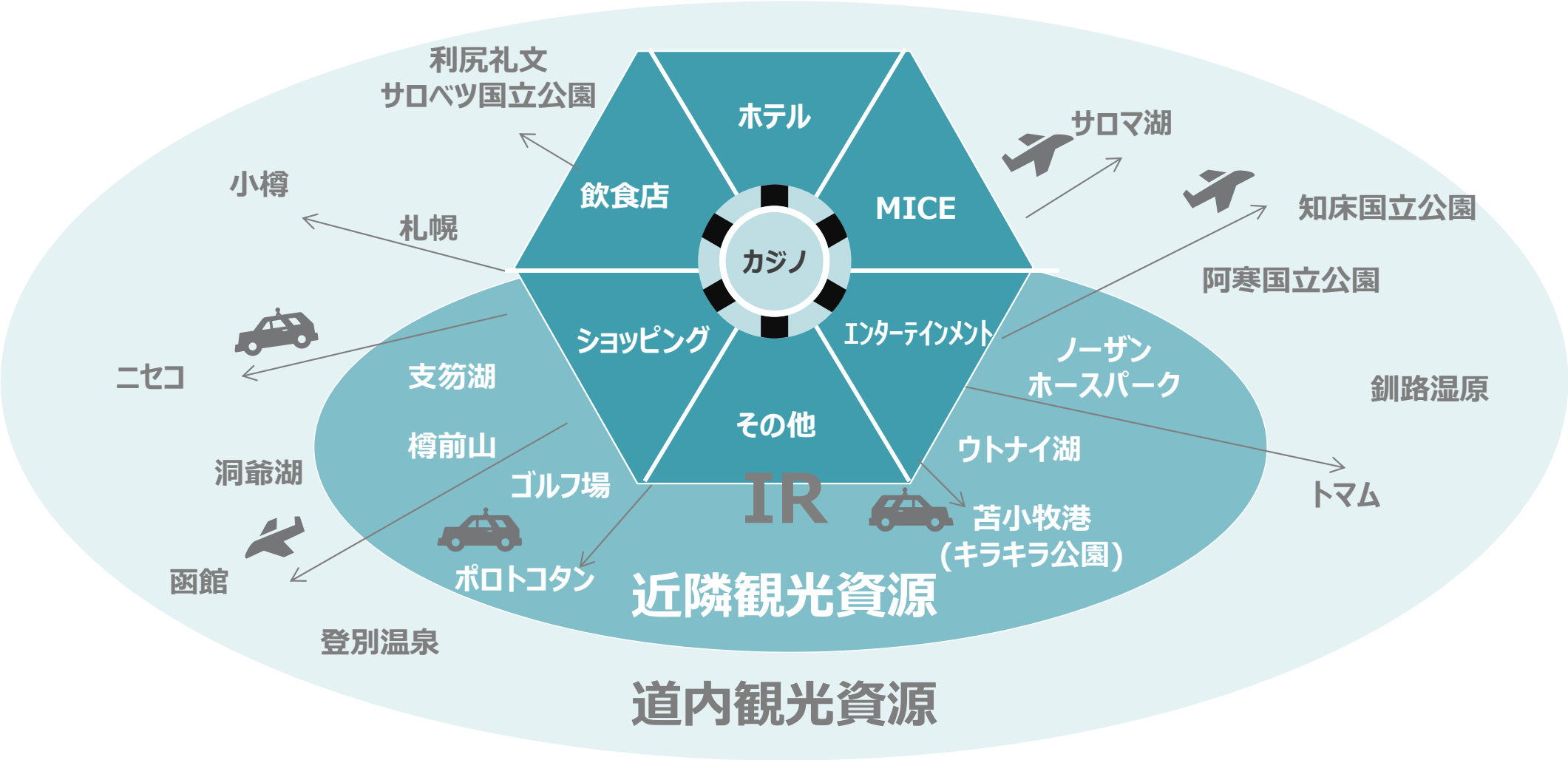
PET検診やMRIなどを組み込んだ人間ドックを主体に、高度な技術・医療機器と日本独自のホスピタリティや観光ノウハウを組み合わせることにより、旅行商品の高付加価値を図るもの。海外向けのみならず、国内向けの健診ツアー商品も提供されている。

例）十勝帯広PET-CTがん検診ツアー
JAL/社会医療法人北斗病院提供

出典[1]日本政策投資銀行　今月のトピックスNo.147-1(2010/5/26)ヘルスケア産業の新潮流　⑧進む医療の国際化～医療ツーリズムの動向～

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
近隣・道内観光資源との連携についての検討

IRを道内周遊観光拠点(観光ポータル拠点）として活用し、IR滞在者を近隣・道内観光資源への誘導する効果が期待される。



3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
近隣観光資源との連携についての検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

狙い

・自然を活かした豊かな観光資源による多様なアクティビティの提供、地域観光の振興施策

・アクセス強化、割引制度、負担金を活用した近隣観光地域整備

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
道内観光資源との連携についての検討

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

狙い　空港ポータル･北海道周遊観光の拠点
⇒北海道観光全体の振興へ(周遊観光＋IR滞在)
課題　アクセス強化、周遊観光とIRを合わせた旅行商品開発

札幌

小樽

稚内

旭川

知床

ニセコ

釧路

函館

トマム

地図出典：北海道庁ホームページ/北海道の概要-アクセス

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
苫小牧IRのコンセプトイメージ①

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
苫小牧IRのコンセプトイメージ②

富裕層向けホテル

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
苫小牧IRのコンセプトイメージ③

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

コンベンションセンター・複合施設

3. 苫小牧統合型リゾート(IR)の検討
苫小牧IRのコンセプトイメージ④

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

一般向けホテル

4. IR導入に際してのインフラ・財政面での検討
IR候補地の検討(1)

4. IR導入に際してのインフラ・財政面での検討

IR候補地の検討(2)

インフラの状況

	新千歳空港隣接地域	苫東区域
住所	苫小牧市植苗	苫小牧市字柏原
敷地面積 ※敷地面積＝開発面積ではない。	10,000,000㎡(1,000ha)	1,000,000㎡(100ha)
用地現状	山林、原野、小規模沼	工業用地、山林、原野、小規模沼
交通アクセス	**空港・札幌はやや近い** 新千歳空港（車で約10-15分） 札幌中心街（高速利用で約50分） 苫小牧市街・港（車で約30分） **※施設までの道路敷設が必要**	**苫小牧市街はやや近い** 新千歳空港（車で約15-20分） 札幌中心街（高速利用で約60分） 苫小牧市街・港（車で約20分）
電気・ガス・上下水道	**新規に整備が必要**	近隣整備済だが、**拡張工事が必要になる可能性**あり。
規制・条例等	都市計画法の市街化調整区域 →商業施設建設のためには、**北海道開発審査会での開発許可、もしくは、市街化区域の拡大等が必要。**	都市計画法の市街化区域 （工業専用地域・ホテル建設不可） →　商業施設建設のためには、**用途地域等の変更手続**が必要

4. IR導入に際してのインフラ・財政面での検討

IR候補地の検討(3)

IR開発上のポイント

	新千歳空港隣接地域	苫東区域
IR候補地としてのPRポイントと考えられる事項	・(ターゲットとする外国人来場客が主要なアクセス手段として利用するであろう)新千歳空港から近い ・高速インターに近い ・市民の生活圏から離れている	・港に近い ・高速インターに近い ・周辺道路が整備済 ・市民の生活圏から比較的離れている
IRコンセプトとその親和性	・雄大な北海道らしい自然に配慮したリゾートIRとしてのコンセプトとの親和性は高い ・空港近接型のIRとしては最適の立地	・Wポートとして、港を空港と同レベルの重要なアクセス手段として位置付けるのであれば、より港に近い立地 ・植苗地区ほどではないが、空港からも近い距離で自然に恵まれている
IR候補地として課題と考えられる事項 ※　共通事項として、IR候補地を民間事業者が利用するための、現在の地権者との交渉が必要	・豊かな自然の残る地域であり、開発にあたっては、環境への配慮が必要である。	・自然に囲まれているものの、工業用地であり、リゾート地としてのイメージがなく、IR基本コンセプトとの親和性の問題 ・(空港から至近である植苗地区と比較すると)空港から遠い

4. IR導入に際してのインフラ・財政面での検討
開発に伴う環境問題への配慮、市財政への影響

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

開発に伴う環境問題への配慮

想定される環境問題

- 開発地域の動植物体系への影響
- 景観・騒音問題
- エネルギー問題

配慮事項

- 北海道ブランドイメージを活用した自然派IRというコンセプトからも、環境への影響を十分に考慮

想定される対応策

- 開発地域の十分な環境アセスメント
- 最新環境テクノロジーの活用（再エネ・省エネ技術等）
- 景観・騒音に配慮した施設設計
- 事業者への義務化

インフラ整備、市財政への影響

公共側等で整備が必要な主なインフラ

- 空港からのアクセス道路、モノレール
- JR千歳線のIRへの延伸・複線化
- 上下水道施設

市財政への影響

- 道路整備に係る道・市の主体の明確化
- 道路・上下水道施設負担額については、IR事業者からの運営開始後の負担金で回収することも可能

5. IR導入による社会的影響とその対策
カジノ施設導入により予想される負の社会的影響

●国・運営事業者・自治体それぞれの立場での取組により、負の影響を合理的なレベルに抑制する施策が望まれる。

	負の影響	想定される対応策
カジノ内部の問題	・反社会的勢力の運営への関与、顧客としての入場 ・マネー・ローンダリングの温床となるリスク ・イカサマ、横領等不正の問題	・厳格な参入規制(ライセンス,株式所有・譲渡規制等）、法律上の欠格者としての定義と排除 ・FATF勧告等に基づく疑わしい取引の届け出規制 ・内部統制(MISC)による規制
カジノ外部の問題	・周辺治安の悪化	・都道府県警察との連携 ・生活圏からの隔離
人の心の問題	・ギャンブル依存症の拡大 ・青少年育成面での悪影響	・啓発活動、入場規制、治療サービス ・入場規制（本人確認）

5. IR導入による社会的影響とその対策
反社会的勢力の運営への関与

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

●厳格なライセンス規制の導入により、相応しくない勢力がカジノ運営に関与することを事前に防止する。
●IDチェックの実施等により、運営開始後も反社会的勢力をカジノ施設から排除する。

「カジノ事業者」、「カジノに使用する関連機械、システム、器具の製造事業者・サービス提供事業者」の直接・間接の一定%以上の株主、役員、重要な従業員に対する規制

- 米国の規制を参考に許可制として、健全性や適格性を確認するための厳格な背面調査。
- これをクリアできなければカジノ事業への参入はできない。
- 反社データベースに基づく事前の反社スクリーニング。
- 弁護士等の外部専門家によるグレー先の調査（周辺者に関する情報収集の限界）。

カジノ場内への入場者に対する規制

- 入場にあたって写真付の身分証明書で確認。
- 入場にあたって反社会的勢力でないことの表明確約。事後に判明した場合は詐欺罪で刑事告発。
- フロントマネーやクレジットラインを設定する者については、事前に反社データベースに基づき反社スクリーニング。

5. IR導入による社会的影響とその対策
マネー・ローンダリング防止

●犯罪で得た収益である事実を隠匿し、表の世界で使えるお金ににしたり、再び犯罪の資金源とすること。放置すれば－＞犯罪・テロ行為、課税逃れの助長

●大量の現金を取り扱うカジノは、国際機関であるFATFにより「疑似金融機関」とされる。

マネー・ローンダリングのイメージ

顧客管理の強化	● 継続的な顧客情報管理、保管義務
疑わしい取引の届出	● 疑わしい取引が生じた場合の規制当局への報告義務
高額取引の監視	● 一定額以上現金取引が生じた場合の規制当局への報告義務（個人情報含む）

5. IR導入による社会的影響とその対策
ゲーミングに関連するイカサマ、横領等不正の問題

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

●カジノ売上(GGR)が正しく計算できないー＞納付金課税もれ
●刑法上の犯罪抑止
●内部統制ルールの設定と第三者による監査

ゲーミングに関する規制	監視・モニタリング	財務報告手続
● 厳格な事前認証（機器・道具・従業員のライセンス管理） ● 従業員の服装、ディーリングの所作の標準化 ● ゲームルールの明確化 ● 現金にまつわるAccountabilityの考え方 ● 現金の運搬、カウントは必ず二人以上で	● Eye in the Sky（天井裏の目） → ゲーミングフロアに死角はない。テクノロジーの進展により、24時間録画、事後検証が可能に。 ● 私服警備員の巡回 ● Cage/ Cash count roomの二重扉の採用 ● オペレーションから独立した内部監査部門の存在	● ITシステムに関する統制手続（アクセス制限、スロットマシンのIT化） ● 複写式伝票、署名の徹底（どこで現金が無くなったかをトラック） ● Win %の分析 ● 経理部門はオペレーションから独立

MICS(最低限構築すべき内部統制手続）の遵守とその監査

*MICS: Minimum Internal Control Standard 最低限構築すべき内部統制手続

5. IR導入による社会的影響とその対策
周辺治安の悪化

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

●IR(カジノ)導入による周辺治安の悪化の懸念

・IR(カジノ)の導入に伴い、周辺治安の悪化が懸念されるが、諸外国の事例では状況は様々であり、必ずしも周辺治安の変化をもたらすとは言えない。
例）シンガポール ⇒ IR(カジノ)導入後、犯罪率はむしろ低下
韓国（江原ランド） ⇒ カジノ導入後に市街地に質屋が乱立、韓国人の依存症問題等、導入による負の影響が顕在化

・しかしながら、IR(カジノ）を導入した地域においては観光客数の増大に伴い、一定程度の犯罪件数の増加も懸念される。

カジノではなく、IRとしてのコンセプトの磨き上げ
警察とIR事業者警備部門の連携による治安対策
IR(候補地)を市街地から離れたところに設置

5. IR導入による社会的影響とその対策
人の心の問題－ギャンブル依存症とは？

・経済的・社会的・精神的な不都合（問題）が生ずるにも関わらず、ギャンブル（パチンコ・スロット・競馬・競輪・競艇等）を止めることができない状態[1]を言う。

・カジノ導入国では、依存症に対する啓発活動や教育に加え、排除プログラムによる入場規制や広告宣伝規則等の防止・抑止策、そして依存症患者に対して専門医療機関による治療サービスを提供する等の依存症対策が取られている。

・わが国では、既にパチンコ・パチスロや公営ギャンブルが提供されており、IRのカジノに関する議論を契機に、ギャンブル依存症に対する調査・研究・対策が進むと考えられる。

[1]医療法人社団　裕和会　大石クリニック HPより

5. IR導入による社会的影響とその対策
人の心の問題 – 我が国のパチンコ・公営ギャンブルの状況

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

	パチンコ・パチスロ	公営ギャンブル	【参考】 カジノ（シンガポール）
軒数・台数	約12,300軒/約458万台[1] 成人人口1000人あたり約43.6台	98場 ※平成24年、37都道府県	2軒/マシン台数4,700台強[2] 成人人口1000人あたり約1.6台
入場規制 （未成年）	18歳未満入場禁止 ※IDチェック無し	無 ※IDチェック無し、投票券は20歳以上のみ購入可	21歳未満入場禁止 ※入口でIDチェック実施
入場規制 （入場欠格者・自己排除プログラム）	無	無	有
入場料	無	少額	自国民に対し課金
広告宣伝規制	無	無	有
その他 （自主規制含）	•依存症啓発ステッカーの作成 •業界団体による認定NPO法人の活動支援 •チラシによる啓発活動 等	無	•国家依存症対策会議(NCPG)の国家予算による設置

[1] H23日遊協HPより
[2] MBS/RWSのHPより

5. IR導入による社会的影響とその対策

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

人の心の問題 – 青少年教育に対するリスク・ギャンブル依存症の増大

●成長期、思春期において身近にカジノが存在することによる人格形成への悪影響？
●諸外国での事例を踏まえた依存症対策

・シンガポールでの事例にあるように未成年者の厳格な入場規制を設ける。
・カジノへの動線と宿泊、エンターティンメント施設への動線を切り離す。
・ギャンブルリスクについての青年期の教育、啓発（豪州クイーンズランド州ではギャンブル統計学が高校レベル数学の単位の一つとして認定されている）

＜シンガポールの事例＞

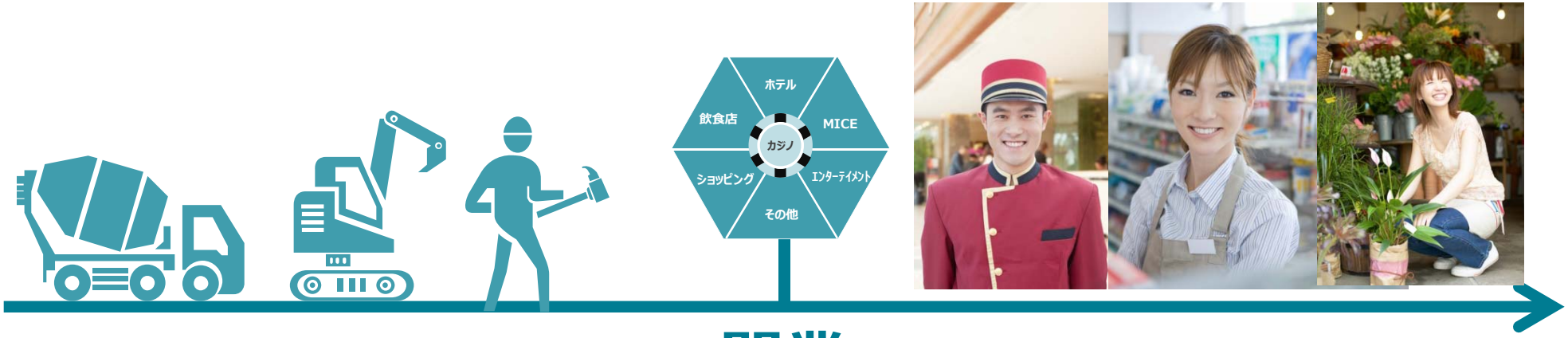
第一段階 （周知徹底・教育）	● 国家依存症対策会議による啓発活動 ● カジノ従業員の職員教育プログラム（問題顧客を早期発見し自制を促す・退去勧告等）
第二段階 （防止・抑止）	● 入場者に対して**ID提示**を義務付ける ● 自国民に対する**入場料金の徴収** ● 自国民、一般顧客に対する**信用貸の禁止** ● 国内マーケットをターゲットにした**広告の禁止** ● 自己排除プログラム、家族排除プログラム ● **規制当局による顧客排除命令**（第三者排除ー生活保護受給者、問題顧客等） ● ヘルプデスク、カウンセリング、NPO/自助組織への支援 ● 賭金行動規制（物理アクセス制限、環境規制、賭金行動規制）
第三段階 （救済・治療）	● 専門医療機関による治療プログラムの提供 ● カウンセラー、医師等の支援・育成

⇒日本に導入される際には諸外国の状況を踏まえた対策が取られるものと考えられる。

6. IR導入による経済効果
時点による分類

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

苫小牧にIR施設が設置された場合、以下のような経済効果が期待される



施設建設時の効果

IR施設の建設需要の創出
Ex. 建設資材の購入、建設機械・資材のレンタル費用、建設作業従事者の給料、工事車両の燃料代

開業

施設運営時の効果

IR施設における雇用機会の創出
Ex.シンガポールのRWSにおける直接雇用者数は13,600人[1]

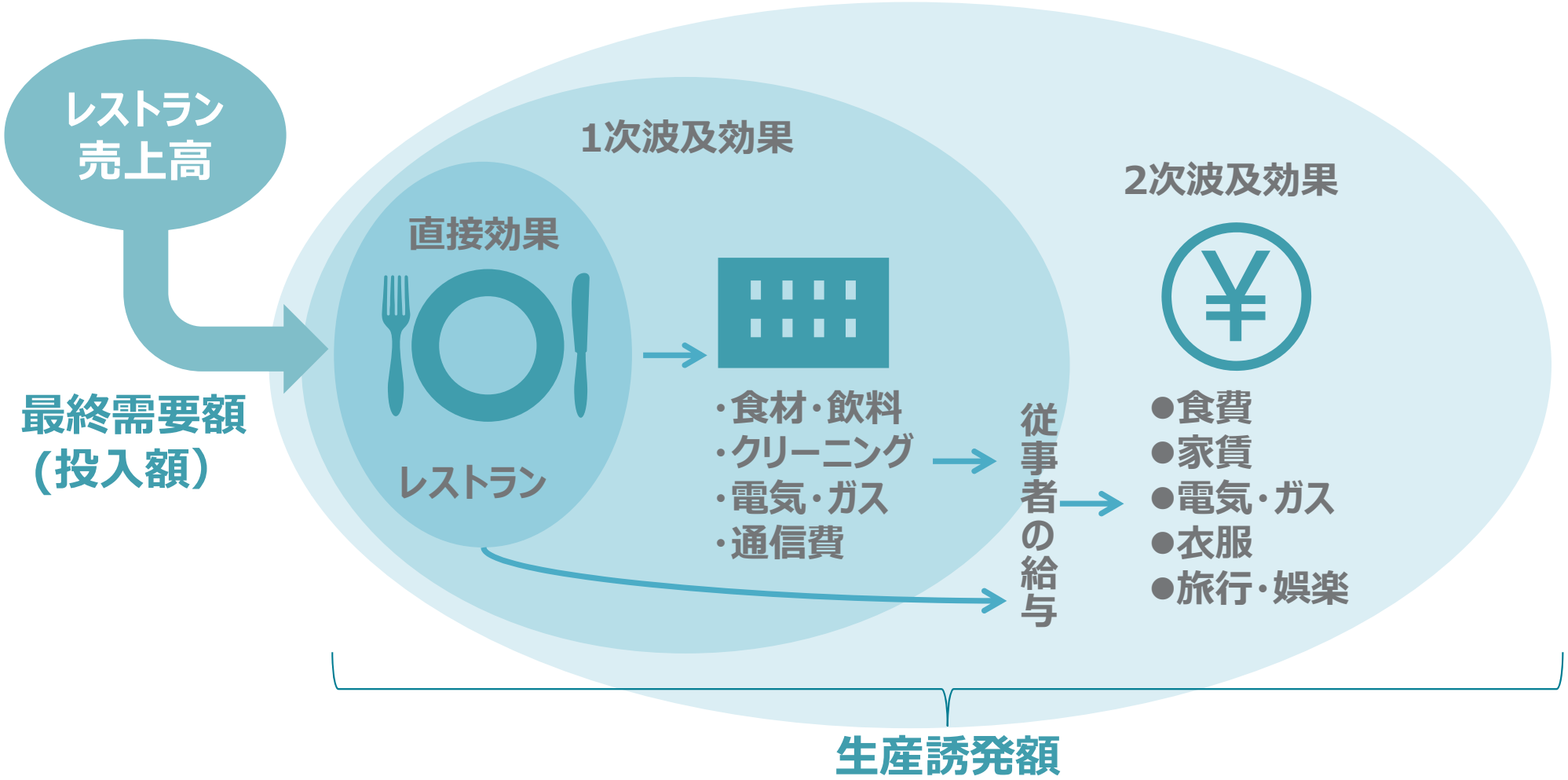
IR施設の運営・維持管理需要の創出
Ex.ホテルにおけるリネン類のクリーニング、レストランで使用する食材・消耗品購入、施設の清掃・警備業務の委託

シンガポールではIR運営に際して、地元事業者の利用や地元住民の採用が求められており、日本でも同様の配慮が行われることも考えられる。

出典 [1]シンガポール視察報告書　Genting Singapore 陳社長との意見交換より

6. IR導入による経済効果
直接効果と波及効果

IR施設の売上は、原材料の購入や関係費用の支出を通じて苫小牧市・道内の事業者の売上になり、更にその効果は給与支出を通じて従業員やその家族にも波及する。



6. IR導入による経済効果

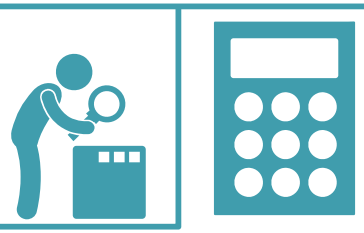
経済効果の試算の全体像

	圏内客	道内客	道外客	来道外国人
カジノ				
ホテル				
レストラン				
ショッピング				
エンタメ				

海外事例や国内の市場データ等に基づき、一定の仮定の基で各施設の利用頻度、平均消費額等を計算するシミュレーションにより売上高を試算。売上高の試算に基づき投資額を試算。

投資額の試算

売上高の試算



産業連関表分析
(北海道全域に及ぼす影響)

建設投資

売上高

6. IR導入による経済効果
経済波及効果の試算結果

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

施設建設時の効果	項目	施設運営時の効果
投資額　約1,000～1,590億円	投入額	売上高　約650～1,130億円
約1,000～1,590億	直接効果	約560～970億
約510～820億	1次生産誘発効果	約220～370億
約390～620億	2次生産誘発効果	約160～280億
約1,910～3,030億円	生産誘発額 計	約940～1,620億円
約16,400～26,100人	就業誘発人数	約10,400～18,000人
n/a	IR利用者	約223～378万人/年

※北海道庁公表の「経済波及効果分析支援ツール」(平成21年延長表・109部門)に基づく経済波及効果の分析結果
※上記試算はIR施設の建設・運営に直接起因する効果のみ試算しており、IR訪問者が道内周遊観光を行うことによる効果（IR以外の観光地での宿泊・消費等）は試算していない。

（注）上記試算はIR事業者の具体的な計画に基づくものではなく、市が仮設定した試算に基づく計算結果である。

6. IR導入による経済効果
税収等の効果

カジノ施設は収益性が非常に高いため、通常の税負担に加えてカジノ売上に対して特別な税金・納付金を課すことが諸外国の事例では見られる。

国税 ＋ 地方税

↓

カジノ売上等に対する課税

↓

国 ／ 道 ／ 市町村

	米国 ネバダ州	シンガポール	マカオ
カジノ売上に対する課税	累進で最大 6.75%	一般 15% VIP 5% 更に消費税 7%上乗せ	39%
ゲーミング粗収益 (2013年度、億円)	約1兆2,475	約4,930	約5兆4,196
ゲーミング税収 (2013年度、億円)	約1,070	約2,245	約2兆1,163
税金等使途	一般財源 及び教育等	主として 一般財源	主として 一般財源

※上記に加え、特定資産税、ライセンス料等が課されている。

日本ではIR法が成立しておらず詳細は未定であるが、同様のカジノ売上(GGR)に対する納付金が設定され、行政サービスの向上に資する効果が期待される。

出典：ネバダ州ゲーミング管理局（NGCB）、Genting社アニュアルレポート、Las Vegas Sands社10-K、シンガポール統計局、マカオ賭博監督協調局（DICJ）、ゴールドマンサックス証券、UBS証券

6. IR導入による経済効果
税収等の試算結果

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

項目	試算額	試算の前提等
国税	約49～85億円	現時点で明らかになっている範囲内でIR開業時点で適用されると想定される税率に基づき試算を行う。
地方税（道府県民税）	約15～26億円	
地方税（市町村民税）	約18～30億円	
小計	約82～142億円	
カジノ納付金	約57～98億円	カジノ売上(GGR)に対する課税。GGRの20%として試算
入場料（試算1）※	約29～47億円	内国人から2千円/回徴収
入場料（試算2）※	約133～211億円	内国人から9千円/回徴収

※ギャンブル依存症対策の一環として、内国人（日本人）利用者に対して入場料を課す施策が想定される。入場料金の設定水準はカジノ利用者数に影響を及ぼすと想定されるが、計算の便宜上、利用者数に変動はないものとして、入場料を２パターンに分けて試算を行っている。試算1は映画館の入場料金水準を参考に2千円、試算2はシンガポールのカジノへの入場料100シンガポールドル（約8.8千円）を参考に9千円と想定した。

（注）上記試算はIR事業者の具体的な計画に基づくものではなく、市が仮設定した試算に基づく計算結果である。

7. 法制度の整備と想定されるロードマップ

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

法制度の整備

・日本では賭博行為は刑法で禁止。公営ギャンブルや宝くじ等、社会的な便益が認められる場合に限定して認められている。

・カジノを含むIRが観光及び地域経済の振興に寄与する(社会的便益が認められる)ものであるとして、超党派の「国際観光産業振興議員連盟」(通称IR議連)がIR推進法案の成立を目指している。

・IR推進法案(案)では、以下の２Stepで設置区域・事業者の選定を行うものとされている。
STEP1 国による設置区域の選定
STEP2 選定された区域において、IRを運営する事業者を選定

※国による区域選定は、当面の間2～３箇所に限定されると言われている。

7. 法制度の整備と想定されるロードマップ
IR導入ロードマップ

苫小牧市 TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

	国	北海道・苫小牧市	事業者
2015年内	IR推進法案の制定		
	推進本部の設立	基礎的研究調査	市場調査
		道内地域選定①	応札地域の決定
		コンセプト概要の決定	開発計画の策定
		道内地域選定②	
		都市計画・コンセプト提案まとめ	
2016年内	IR実施法の制定	地方議会の合意	
		応札資料の作成（RFC）	
2016年末～2017年	公募	区域の指定	コンソーシアムの組成
		運営企業選定基準の策定	応札資料の作成
2017年		公募（RFP）	
			運営企業の候補者として決定
2017年以降	事業者の適格性審査		事業ライセンス取得
		IR設置運営に関する協定書締結	資金調達・建設
2020年東京五輪に間に合うか？			開業

区域決定（RFC）

シンガポールの事例では、議会でのカジノ合法化論議と同時並行でRFCを実施（開発区域は所与）

現在、道内3候補地が名乗りをあげているため、左記①又は②のタイミングで道内の地域選定を行う必要がある。

運営企業の選定（RFP）

シンガポールの事例では応札期間6カ月、受付開始から8カ月で業者確定

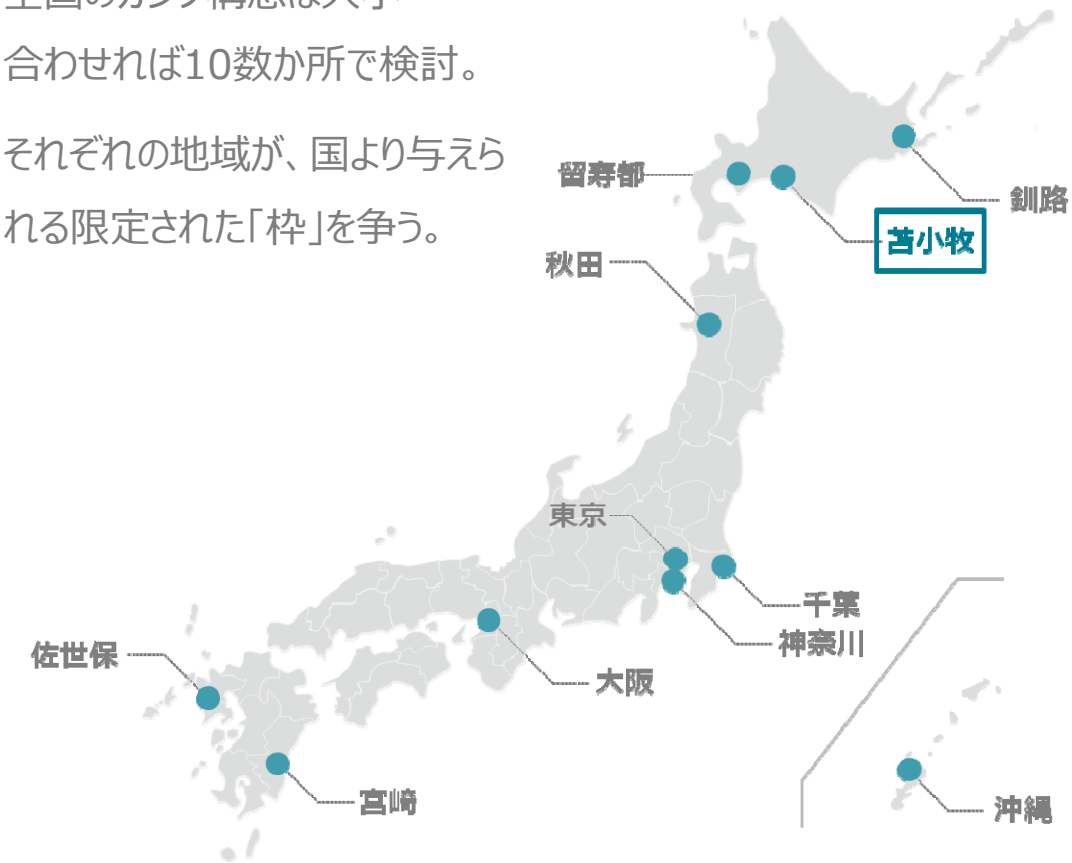
7. 法制度の整備と想定されるロードマップ
現状のIR立候補状況と北海道・苫小牧型IRの優位性

苫小牧市
TOMAKOMAI CITY, HOKKAIDO

全国の主なカジノ構想

全国のカジノ構想は大小合わせれば10数か所で検討。

それぞれの地域が、国より与えられる限定された「枠」を争う。



北海道内及び全国の地域選定を勝ち抜く必要

北海道型IRの強み	苫小牧型IRの強み
•豊富な観光資源 •海外からの人気 •地域振興必要性 •Only 1 のIR	•空港隣接型の利便性 •道全体の観光振興への貢献 •MICEビジネス需要 •広大な開発可能地

地域型IRとして高いポテンシャル

官民・地域が協力し、IR誘致に向けた課題に対応することが重要

8．IR導入に向けた課題

今後、IR導入に向けて想定される主な課題

課題	具体的な内容
IR機能・施設の検討	•観光振興への貢献、差別化できるコンセプトの具体化 •事業採算性とのバランス（アミューズメント施設等）
インフラ	•候補地の決定、開発許可・用途地域変更手続等 •周辺インフラ整備に係る規模・負担関係の整理 •候補地の地権者との土地利用法に係る交渉 •自然・周辺環境影響への配慮 •新千歳空港の機能拡張・IRとの連携(アクセス強化・タイアップ等）
負の影響対策	・IR実施法に沿った妥協の無い対策の準備
国・道への要望	•IR導入の円滑化・地域振興に向けた要望 •地域選定評価基準に係る情報入手 •道内地域選定後の道との共同検討体制 （道・市の役割分担、開発許可、道全体の観光振興策等々）
事業者との関係	•コンセプト作りに係る情報収集（コンタクト・需要の確認） •地域観光振興の実現に向けた官民協力 •応募意欲を促進する仕組み •不公平・不適切な関係に陥らないよう十分に配慮

8．IR導入に向けた課題

苫小牧型IR導入に向けた地域コンセンサスの重要性

IR導入により期待される効果

- 北海道観光資源のポテンシャルを生かし、観光振興の起爆剤
- 地域にとっても雇用・税収面でのメリット

IR導入に伴う負の影響

- 対策を誤るとギャンブル依存症、周辺環境悪化等の負の影響のリスク

プラスの効果を伸ばし、負の影響を厳格にコントロールすることが重要

プラス・マイナス双方とも地域が大きな影響を受ける。

⇒ 導入に当たっては地域コンセンサスが極めて重要

⇒ 地域選定上も地域コンセンサスの取得状況が重要な評価項目になる可能性

➡ **地域住民と行政とが一体となり、一緒に苫小牧・北海道にとってより良い未来を考える上で、IRをどのように位置づけるか考える必要がある。**